

# 五百刈遺跡

## 発掘調査報告書

財団法人  
山形県埋蔵文化財センター



6-1995-1174-01

1994

|      |
|------|
| 1995 |
| 1174 |
| 6    |

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

ご  
ひゃく  
がり  
**五百刈遺跡**  
発掘調査報告書



1005-1174

平成6年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



本調査区発掘調査状況



S K 74土壤遺物出土状況

## 序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、五百刈遺跡の調査成果をまとめたものです。

五百刈遺跡は、山形県の北西部に位置する鶴岡市にあります。鶴岡市は西側を庄内砂丘、南側を朝日山地、西側を赤川に囲まれた情緒ある城下町です。

調査では、平安時代の墓物跡と、その下から古墳時代の堅穴住居跡などが発見されました。今回の調査区域は五百刈遺跡の北端にあたりますが、出羽国の始まりを理解するうえでよい資料を得ることができました。

埋蔵文化財は祖先が長い歴史の中で創造し育んできた貴重な遺産といえます。私たちは国民的財産の文化財を大切に保護し、さらに郷土の歴史の中で培われた文化を後世に引き継がねばなりません。一方、平和で豊かなくらしは私たちが等しく切望しているところです。近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など国県等の事業が増加しているが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。

事業区内の遺跡の調査は、埋蔵文化財保護と開発事業実施のため、適切かつ迅速に行われることが今日求められています。こうした要請に適切に対応するとともに埋蔵文化財調査体制の充実を図ることが急務とされ、平成5年4月に財団法人山形県埋蔵文化財センターが設立されました。職員一同、県民と関係各位の要望に応え本県の埋蔵文化財保護のため一層の努力をいたす所存です。今後とも当センター発足の目的が遂行されるようご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

本書が文化財保護活動の啓蒙普及、学術研究、教育活動などにおいて皆様のご理解の一助ともなれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力をいただいた地元の方々をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

平成6年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター  
理事長 木場 清耕

## 例　　言

- 1 本書は、県宮ほ場整備事業下川地区に係る「五百刈遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は山形県教育委員会の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 調査の要項は下記のとおりである。

遺跡名 五百刈遺跡（ATO GGG） 平成3年度登録  
所在地 山形県鶴岡市大字下川字五百刈他  
調査期間 発掘調査 平成5年4月1日～平成6年3月31日  
現地調査 平成5年7月26日～平成5年8月25日 延べ20日間  
調査主体 財団法人山形県埋蔵文化財センター  
発掘調査・整理担当  
調査研究課長 佐々木洋治  
主任調査研究員 佐藤 庄一  
嘱託職員 飯塚 稔
- 4 発掘調査及び本書を作成するにあたり、山形県庄内支庁経済部赤川土地改良事務所、鶴岡市教育委員会、西郷土地改良区等関係機関の協力を得た。現地調査と報告書作成に当って、吉田洋一（山形市立第六中学校教諭）氏からご指導を賜った。ここに記して感謝申し上げる。
- 5 本書の作成・執筆は、佐藤庄一、飯塚稔が担当した。編集は安部実、伊藤邦弘が担当し、全体について佐々木洋治が監修した。
- 6 遺物実測図のうち土師器の一部については、株式会社シン技術コンサルに実測業務を委託した。
- 7 出土遺物、調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

## 凡　　例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

S A : 柱列 S B : 建物跡 S D : 溝跡 S K : 土壙 S T : 住居跡  
S X : 性格不明遺構 E B : 柱穴 R M : 金属製品 R P : 一括土器 R Q : 石製品
- 2 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。
- 3 報告書執筆の基準は下記のとおりである。
  - (1) 遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は磁北を示している。
  - (2) グリッドの南北軸は、N-21°58' - Eを測る。
  - (3) 遺構実測図は、1/40・1/60・1/200・1/500縮図で採録し、各捕図毎にスケールを付した。
  - (4) 遺構計測表中の（ ）の数値は、検出部分の計測値を示している。
  - (5) 遺物実測図・拓影図は1/2・1/3・1/4で採録し、各々スケールを付した。
  - (6) 本文中の遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・遺物図版とともに共通のものとした。
  - (7) 遺物観察表中の（ ）内の数値は、図上復元による推定値、または残存値を示している。また、出土地点層の層位で、Fは遺構覆土内出土、ローマ数字は（I～V）は遺跡を覆う土層（基準層序）を示している。
  - (8) 土師器実測中の網点は黒色化処理がなされている部分を示す。また、木製品実測中の網点は焼けている部分を示す。
  - (9) 遺構覆土の色調の記載については、1987年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」に掲った。

## 目 次

|             |    |
|-------------|----|
| I 調査の経緯     |    |
| 1 調査に至る経過   | 1  |
| 2 調査の経過     | 1  |
| II 遺跡の立地と環境 |    |
| 1 遺跡の自然環境   | 3  |
| 2 遺跡の歴史環境   | 3  |
| III 遺構・遺物   |    |
| 1 遺構の分布     | 5  |
| 2 古墳時代      | 8  |
| 3 平安時代      | 17 |
| IV ま と め    |    |
| 1 遺構について    | 25 |
| 2 遺物について    | 26 |
| 報告書抄録       | 27 |

## 表

|             |    |
|-------------|----|
| 表1 遺構観察表（1） | 15 |
| 表2 遺物観察表（1） | 16 |
| 表3 遺構観察表（2） | 23 |
| 表4 遺物観察表（2） | 24 |

## 挿 図

|                  |    |
|------------------|----|
| 第1図 遺跡周辺低地の微地形分類 | 2  |
| 第2図 調査区概要図       | 4  |
| 第3図 中央土層断面図      | 5  |
| 第4図 遺構配置図（本調査区）  | 6  |
| 第5図 遺構配置図（排水路地区） | 7  |
| 第6図 S T 36・49住居跡 | 9  |
| 第7図 S T 66・70住居跡 | 11 |
| 第8図 落ち込み遺構       | 12 |
| 第9図 古墳時代等遺物（1）   | 13 |
| 第10図 古墳時代等遺物（2）  | 14 |
| 第11図 S B34建物跡平面図 | 18 |
| 第12図 S B39建物跡平面図 | 19 |
| 第13図 溝跡・土壤       | 20 |
| 第14図 歴史時代遺物（1）   | 21 |
| 第15図 歴史時代遺物（2）   | 22 |

## 図 版

|                   |  |
|-------------------|--|
| 卷頭図版 本調査区発掘調査状況   |  |
| S K74土壤遺物出土状況     |  |
| 図版1 発掘調査前の状況      |  |
| 本調査区発掘調査状況        |  |
| 図版2 S T36住居跡近景    |  |
| S D72溝跡近景         |  |
| 図版3 S X48遺物出土状況   |  |
| S K74遺物出土状況       |  |
| 図版4 S T49住居跡      |  |
| 図版5 S T49住居跡全景    |  |
| S T70住居跡全景        |  |
| 図版6 東壁土層断面        |  |
| 中央土層断面            |  |
| 南壁土層断面            |  |
| 図版7 古墳時代等出土遺物（1）  |  |
| 古墳時代等出土遺物（2）      |  |
| 図版8 S B39建物跡全景    |  |
| S B34・39建物跡遠景     |  |
| 図版9 S D40大溝断面     |  |
| S D50大溝断面         |  |
| 図版10 S D1溝跡遺物出土状況 |  |
| S D1溝跡土壤出土状況      |  |
| 排水路立合地区全景         |  |
| 図版11 歴史時代出土遺物（1）  |  |
| 歴史時代出土遺物（2）       |  |

## I 調査の経緯

### 1 調査に至る経過

鶴岡西部地区遺跡群の確認は、昭和31年頃に行われた暗渠管の埋設工事や水田の整下げ工事等を契機とした、古墳時代の集落跡である清水新田遺跡、矢馳A・B遺跡、山田遺跡等の発見に始まる。

昭和62年度から、これら遺跡群を含む一帯に県営ほ場整備事業（鶴岡西部地区）が実施され、矢馳A・B遺跡、清水新田遺跡等の緊急発掘調査が行われ、庄内地方唯一の古墳である菱津古墳に関連する遺跡として貴重な存在となった。

五百刈遺跡も、県営ほ場整備事業（鶴岡下川地区）の事業に伴い、山形県教育委員会が平成3年度に行った遺跡詳細分布調査によって新たに発見、登録された遺跡である。

下川地区には5カ所の遺跡が発見されたため、当初は下川1遺跡と命名されたが、平成5年度から小字名をとって「五百刈遺跡」と改められた。

遺跡の範囲は東西490m、南北400mの広大な地域に広がるが、県営ほ場整備事業が五百刈遺跡にかかることになり、平成3年度の試掘調査の内容をもとに関係機関と協議を重ねた結果、止むを得ず削平される遺跡北端の畑地部分について、今年度財團法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査することになり、平成5年7月26日～同年8月25日までの期間（調査日数20日間）で緊急発掘調査を実施することになった。

遺跡の南側については、今後県の農林水産部と協議をしながら保存していくことになる。

### 2 調査の経過

調査は遺跡北端の畑地を中心に東西20m、南北50mの1,000平方mについて実施し、中央の土層観察畦を基準にして、北地区と南地区の2つに分けて行った。以後これを本調査区と呼ぶことにする。

また、本調査区の南方60mのところに、東西方向の排水路が新しく設置されることとなつたため、この地域に長さ90m、幅2m（約180平方m）についても、調査の始めにあわせて発掘調査を実施した。これを排水路地区と呼ぶ。

現地調査は、重機による粗掘を本調査区では7月27日～30日の4日間、排水路地区では7月27日に実施したのち、2m単位のグリットを設定し、手掘りで面整理を進めた。

遺構の検出作業は8月2日から行い、予想された平安時代遺構の検出と遺構実測図の作成にあたったが、IIIa層灰黒色粘質シルトの更に下面から、古墳時代の遺構と遺物を8月12日に検出したため、本調査区での再点検と遺構の精査を行った。

今回の調査では堅穴住居跡（S-T）4棟、建物跡（S-B）3棟、溝跡（S-D）24条を検出し、写真や図面に記録した。

調査説明会は関係者を含む51名を迎えて8月20日に開催した。8月25日遺構平面図の完了を最後に現地調査を終了し、器材の撤収を行った。



第1図 遺跡周辺低地の微地形分類（1:25,000）

## II 遺跡の立地と環境

### 1 遺跡の自然環境

五百刈遺跡は庄内地方の月山、鳥海山などを主峰とする出羽丘陵の西に展開する沖積平野にあって、北西に庄内砂丘をへだてて日本海にのぞみ、西方に高館山地、南方に金崎山地とに囲まれた標高約10mの河間低地に立地し、南から東側を大山川が北流している。

現在みられる付近の地形は、一部の畠地を残して平坦なものとなっているが、かつては大山川などの流路変遷と共に幾筋もの微高地が形成されていたと推測される。歴史時代以降の土地の平坦化が進められる以前には、微高地と低湿地が入り組んだ複雑な地形が形成されており、当時の人々の生活の営みは水害と稻作との関係の中で、微高地に集落を形成し、低湿地に稻作を営んだものと仮定すると、当時の地形分類が必須になる。

第1図は空中写真における色調の差に着目し、色調の明るい部分を予察的に微高地、暗色の部分を後背湿地として分類を試みたものである。これは、最初の段階で行われたトレンチ調査や一昨年の遺跡分布調査、さらには五百刈現地調査の結果を下に、地山の高さや状態、砂層の分布状況等から裏付けが可能であった。

第1図「遺跡周辺低地の微地形分類」によって、今後遺跡の集落は南東に伸びるものと考察される。

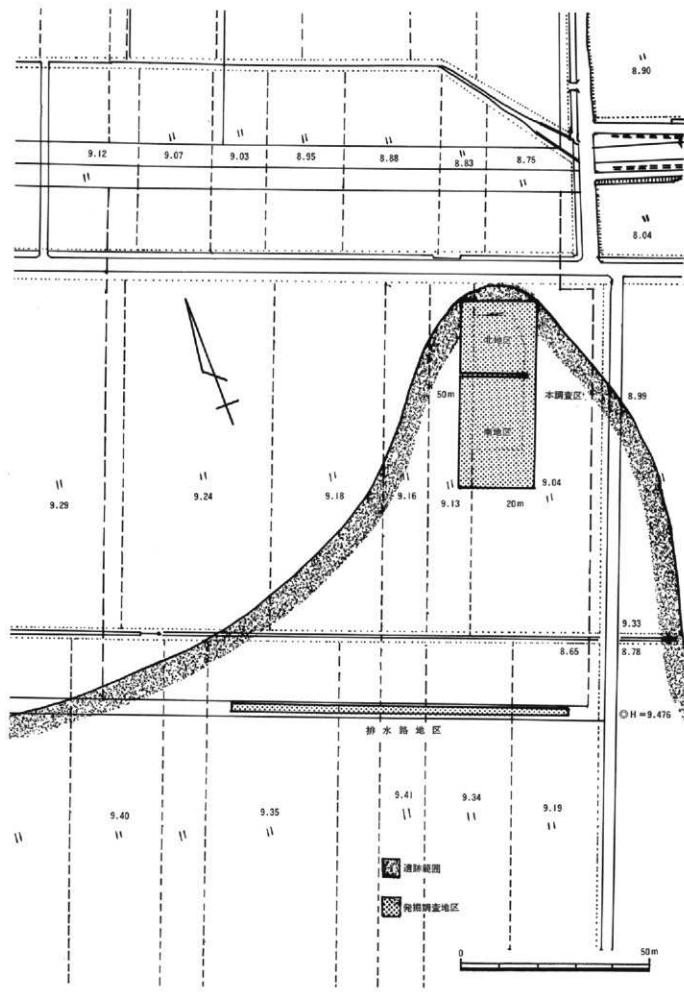
### 2 遺跡の歴史環境

庄内地方でこれまでに確認された古墳時代の遺跡は、古墳・集落跡・包蔵地その他単発的で内容不詳などを含めて10数箇所の遺跡が確認されているが、これらの半数以上が今回調査の対象となった五百刈遺跡と同じ西田川郡域に存在している。

つまり、庄内地方でこれまでに確認された古墳時代遺跡の大半が、庄内平野を二分する最上川の南北半分（川南地区）の田川郡域、とりわけ鶴岡市の西南部や藤島町東南部等に集中している分布状況は、古墳時代の庄内ひいてはその後の出羽郡から出羽国への成立過程を考える上で非常に示唆的であり重要な事と受け止められる。加えて、今の所では庄内に唯一と考えられる古墳時代後期初頭の古墳で「変形長持形組合式石棺」等の形態から6世紀前半代の年代が考定される菱津古墳が同一地区に存在する事も看過できない。すなわち、こうした古墳の存在は、当地にあつても当時の趨勢に連む古墳文化の開花が生産力の向上と集落群の発展を背景として培われた結果と評価できるからである。

さらには、五百刈遺跡に隣接する下川地区的遺跡群「西ノ川遺跡」「西谷地遺跡」「西田面遺跡」および「中野遺跡」「知田遺跡」「矢駒A遺跡」「助作遺跡」「矢駒B遺跡」「清水新田遺跡」等の存在は、和銅2年（709）『続日本紀』にあらわれる「出羽樞」の置かれた場所ないし背景地としては現段階で鶴岡西部地区が最も有力であることを予感させる。

また、排水路地区から出土した墨書土器2点に「岐」の記名があり都沙羅櫛（齊明天皇4年658）との関係を注目する必要がある。



第2図 調査区概要図 (1/1,000)

## III 遺構と遺物

## 1 遺構の分布

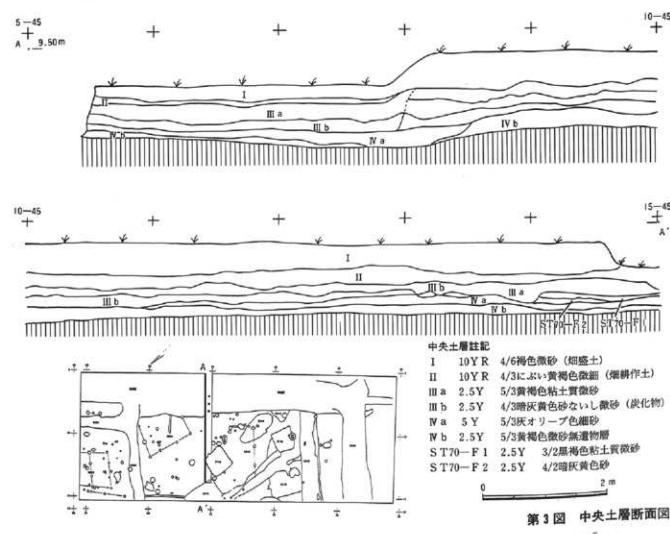
昔の人々が、大地に刻み込んだ生活の跡や構築物を遺構といふ。住居跡や建物跡・溝跡などがこれにあたり、今回の調査では、竪穴住居跡が確実なもので4棟、掘立柱建物跡が3棟、溝跡が25条、土壌13基等が検出された。

遺構の保存を図るため、現状で畑地になっている高台を主に発掘調査を実施したことにより、部分的な検出に終わっている遺構も多い。

古墳時代の遺構は、地盤が良い本調査区の中央部西に集中して検出された。4棟の竪穴住居跡は、平面形が隅丸方形を呈し、大きさは3~5m四方を測る。主軸方向はS T66住居跡を除き、ほぼ同じ方向である。住居跡とほぼ同じ時期の土壌や溝跡も周囲にいくつか検出されている。とくにSK44とSK74号土壌からは、古墳時代の土器がまとまって出土している。

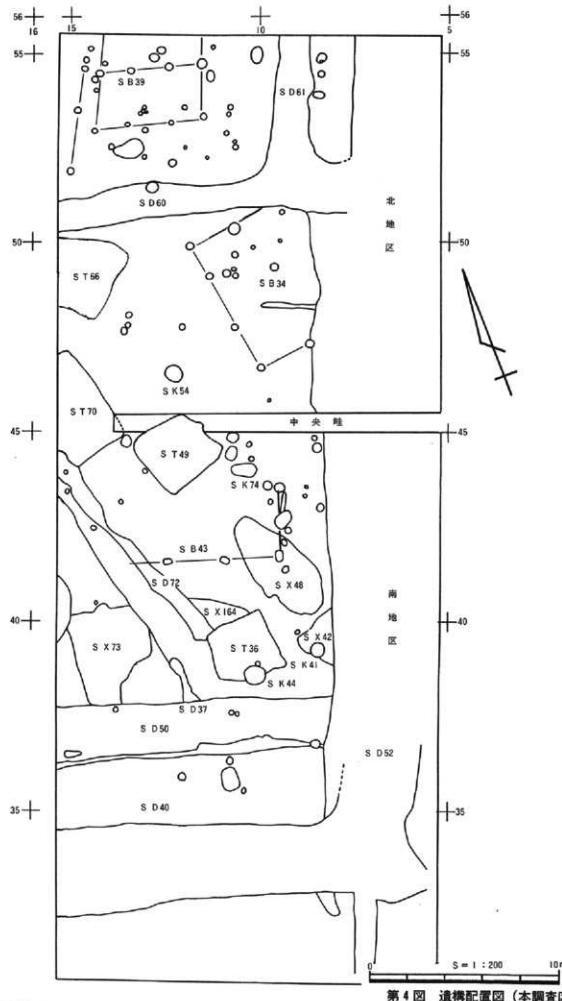
掘立柱建物跡は、本調査区北側、畑地の縁辺部に3棟検出された。S B39建物跡はSD60・61大溝と向きを同じくし、相互に関連するものと考えられる。

このほか排水路地区から、平安時代の溝跡16条と土壌5基等が検出されている。遺構は排水路地区の東半に多く認められ、本調査区とほぼ南北線上に並ぶ。



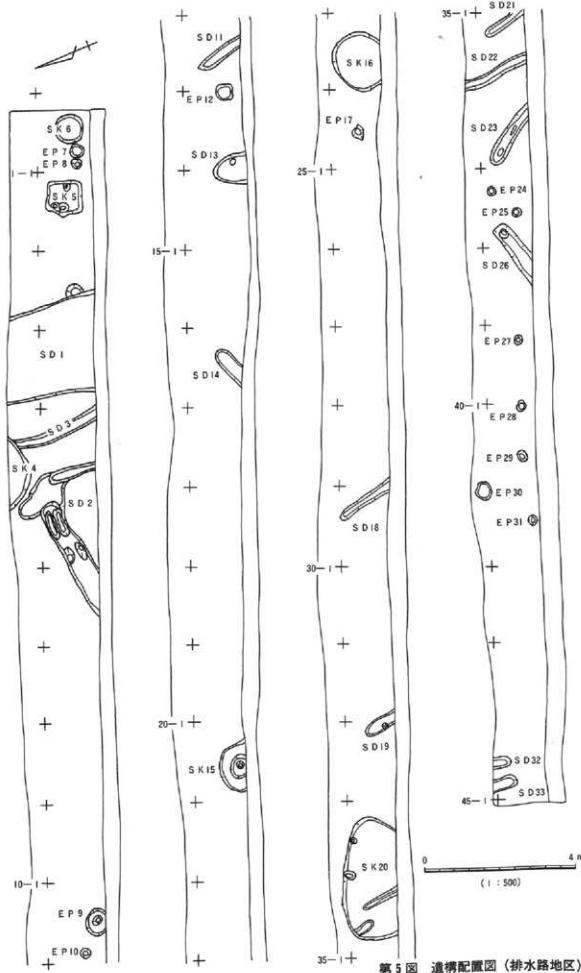
第3図 中央土層断面図

III 道構と遺物



第4図 道構配置図(本調査区)

III 道構と遺物



第5図 道構配置図(排水路地区)

## 2 古墳時代

本節では、IV a 層下部で検出された古墳時代に属する遺構とその出土遺物について、堅穴住居跡、落ち込み遺構、土壤、溝跡の順に説明する。

## (1) S T 36住居跡・S X 164落ち込み(第6図、図版2)

S T 36住居跡は本調査区中央南寄り10~12~39~41Gで検出された不整形の住居跡である。北側がS D72溝跡とS X 164落ち込みを切っており、南側がS X 44土壤によって切られている。大きさは南北径3.42m、東西径3.56mを測る。遺構確認面はIV b 層下面である。壁の上面から床面までの高さは最大部で17cmである。

柱穴は3個検出されている。床面はほぼ平坦であるが、東南になだらかに傾斜する。炉跡やカマドは認められない。

覆土は4層に分かれ、F 1・2に遺物と炭化物を含む。遺物は、土師器甕(第9図19、第10図7)、同壺、鉢、内面が黒色化処理された(以下内黒と呼ぶ)壺、高台壺がある。F 1から多く出土するが、いずれも細片で器形が復元出来るものはない。とくに体部上位に段を有する内黒壺が目立つ。

S X 164落ち込みは、大きさが南北径1.22m以上、東西径3.05m以上を測る。覆土は2層に分かれ、遺物はF 2から土師器甕、同壺、内黒壺、高台壺(第9図17)が出土している。

## (2) S T 49住居跡(第6図、図版2・3)

本調査区中央南寄り12~14~44~46Gで検出された不整形の住居跡である。当初西壁が溝状に検出され、その後の精査によって全体プランが確認されたものである。大きさは南北径3.78m、東西3.45mを測る。遺構確認面はIV b 層下面である。壁の上面から床面までの高さは最大部で15cmである。

柱穴は11個検出されているが、4本柱を基本とするものと思われる。床面はほぼ平坦である。炉跡やカマドは認められない。

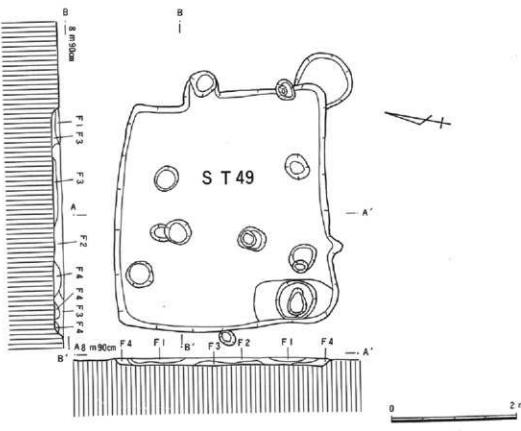
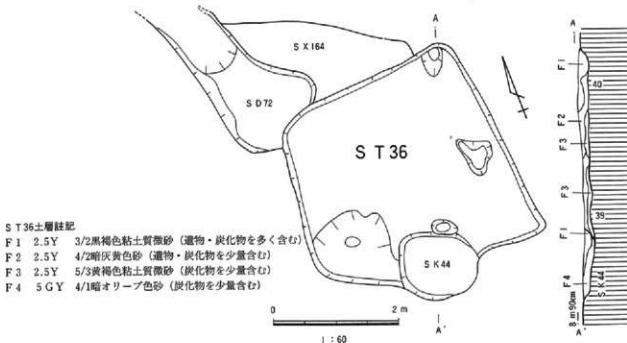
覆土は4層に分かれ、F 2~4に遺物と炭化物を含む。遺物は、土師器甕、同壺、鉢、内黒壺(第9図10)、高台壺がある。F 2から多く出土するが、いずれも細片で器形が復元出来るものはない。壺には内面にミガキ調整が施され、黒色化処理がないものもある。

## (3) S T 66住居跡(第7図)

本調査区中央西壁沿い14~16~49~51Gで検出された不整形の住居跡である。西側が未調査となっているため、全体のプランは不明である。大きさは南北径4.34m、東西径3.70m以上を測る。遺構確認面はIV b 層下面である。壁の上面から床面までの高さは最大部で12cmと浅い。

柱穴は6個検出されている。床面はほぼ平坦で、炉跡やカマドは認められない。

覆土は2層に分かれ、F 1・2に遺物と炭化物を含む。遺物は、土師器甕(第9図16、第10図3・4・6)、同壺、鉢、内黒壺(第9図3・11)がある。F 1から多く出土するが、いずれも細片で器形が復元出来るものはない。甕には内面にミガキ調整が施され、黒色化処理が施されているものもある。



第6図 S T 36・49住居跡

## (4) S T 70住居跡（第7図、図版3）

本調査区中央西壁沿い14~16~45~48Gで検出された不整長方形の住居跡である。西側が未調査となっているため、全体のプランは不明である。大きさは南北径5.51m、東西径3.64m以上を測る。遺構確認面はIV b層下面である。壁の上面から床面までの高さは最大部で13cmである。

柱穴は4個検出されている。床面は南壁沿いがやや落ち込むが、それ以外はほぼ平坦である。炉跡やカマドは認められない。

覆土は2層に分かれ、F 1・2に遺物と炭化物を含む。遺物は、土師器甕（第10図2）、同壺、鉢、内黒坏、坏（第9図14・20）がある。F 1から多く出土するが、いずれも細片で器形が復元出来るものはない。高台坏には内面にミガキ調整が施され、黒色化処理がないものもある。

## (5) S X 42・48落ち込み（第8図、図版2）

本調査区中央南寄り9~11~39~43Gで検出された長楕円形および方形の落ち込み遺構である。遺構確認面はIV b層下面である。

S K42の大きさは南北径2.45m以上、東西2.47m以上を測る。壁の上面から床面までの高さは最大部で10cmである。

覆土は2層に分かれ、F 2に遺物と炭化物を含む。遺物は、土師器甕、同内黒坏、高台坏等がある。

S X 48の大きさは南北径6.37m、東西径2.95mを測る。壁の上面から床面までの高さは最大部で14cmである。

覆土は3層に分かれ、F 2・3に遺物と炭化物を含む。遺物は、土師器甕（第10図8・10）、同壺、鉢、内黒坏（第9図2）、高台坏（第9図15・18・21）、石製紡錘車（第10図12）がある。F 2から多く出土し、古墳時代の遺構の中ではまとまった個体が出土している。

## (6) S X 73落ち込み（第8図、図版2）

本調査区中央西南寄り13~15~38~41Gで検出された不整方形の落ち込み遺構である。大きさは南北径5.00m以上、東西径3.96mを測る。壁の上面から床面までの高さは最大部で17cmである。遺構確認面はIV b層下面である。

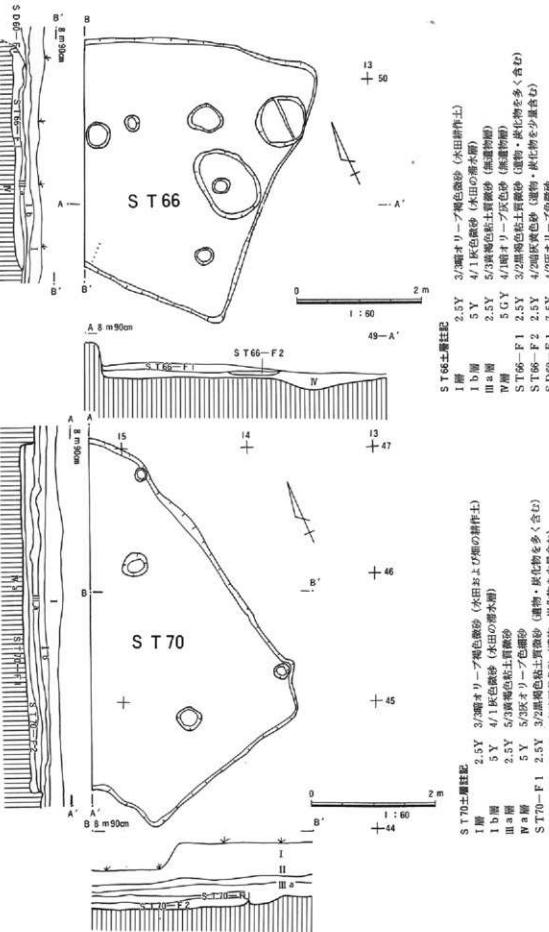
覆土は2層に分かれ、F 1・2に遺物と炭化物を含む。遺物は、土師器甕、同壺、鉢（第10図10）、内黒坏、高台坏、土製玉（第10図13）がある。F 1から多く出土する。

## (7) S K41・44土壤（第6・8図、図版2）

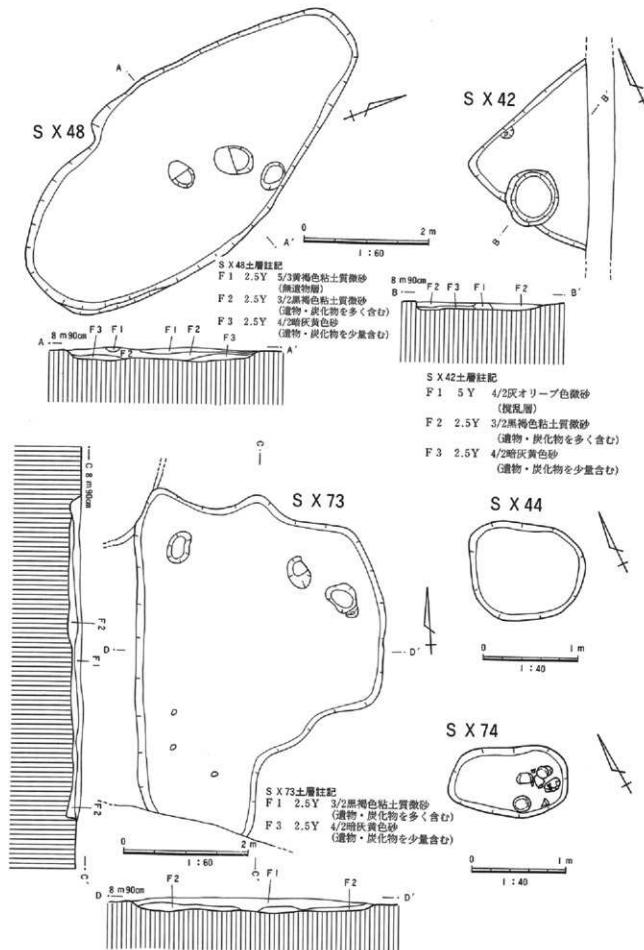
本調査区中央南寄り9~11~39~40Gで検出された円形の土壤である。遺構確認面はIV b層下面である。

S K41土壤は、S X 42落ち込みを切り込んで作られている土壤で、大きさは南北径0.71m、東西径0.69mを測る。覆土は2層に分かれ、各層に遺物と炭化物を含む。遺物は土師器甕、同内黒坏等がある。

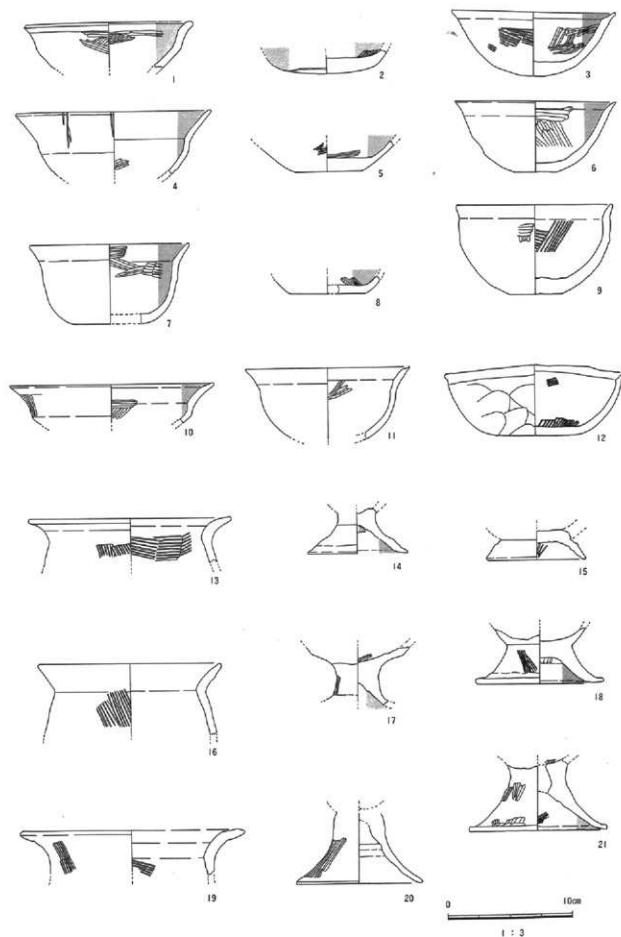
S K44土壤は、S T 36住居跡を切り込んで作られている土壤で、大きさは南北径1.52m



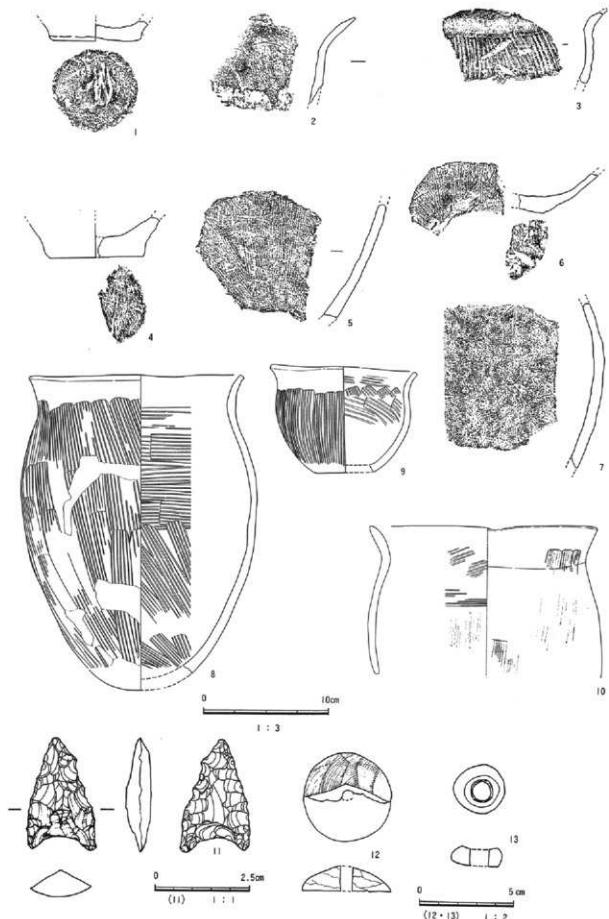
第7図 S T 66・70住居跡



第8図 落ち込み遺構



第9図 古墳時代等遺物(1)



第10図 古墳時代等遺物(2)

東西径1.82mを測る。覆土は2層に分かれ、各層に遺物と炭化物を含む。遺物は、土師器壺、同内黒坏等がある。

(8) S K54・74土壤 (第8図、巻頭図版、図版2)

S K54土壤は、本調査区中央西寄り13-47Gで検出された不整円形の土壤で、大きさは南北径0.98m、東西径0.88mを測る。覆土は2層に分かれ、各層に遺物と炭化物を含む。遺物は、土師器壺、同内黒坏等がある。

S K74土壤は、S T36住居跡を切り込んで作られている土壤で、大きさは南北径1.12m、東西径1.92mを測る。

覆土は黒褐色粘質微砂の單一土層で、遺物はほぼ完形の壺が7個まとめて発見された。壺には内黒のものと非内黒のものがある(第9図5~9・12)。

(9) S D37・72溝跡 (図版2)

本調査区中央西寄り12~15-39~44Gで検出された細長い溝跡である。遺構確認面は住居跡等と同じIV b層下面である。

S D37溝跡は、南側がS D50大溝に切られている溝跡で、大きさは幅0.50m、南北長さ2.65mを測る。覆土は單一土層で、土師器壺、同坏(第9図1)等が出土している。

S D72溝跡は、S X73落ち込みを切り込んで作られており、大きさは幅0.90m、南北長さ10.90m以上を測る。覆土から土師器壺、壺、内黒坏等が出土している。

表1 遺構観察表(1)

| 遺構番号   | 種 別  | 検出地区(X-Y)G地    | 平面(断面)形 | 主軸方位                       | 幅 売<br>(NS×EW)m | 備 考                     |
|--------|------|----------------|---------|----------------------------|-----------------|-------------------------|
| S T 36 | 住居跡  | (10~12-38~41)G | 不整方形    | N-2°50'W                   | 3.42×3.56       | S D72、S X164を切る。<br>第6回 |
| S D 37 | 溝 跡  | (11-12-38-39)G | (U字形)   | N-10°20'W                  | 2.65×0.50       |                         |
| SK 41  | 土 壤  | (9-40)G        | 円 形     |                            | 0.71×0.69       | S X42を切る                |
| S X 42 | 落ち込み | (9-39~41)G     | 方 形     | N-22°10'W<br>(2.45)×(2.47) |                 | S K41に切られる。<br>第8回      |
| SK 44  | 土 壤  | (10-11-39)G    | 円 形     |                            | 1.52×1.82       | S T36を切る<br>第8回         |
| S X 48 | 落ち込み | (9-11-41~43)G  | 長 短 圓   |                            | 6.37×2.95       |                         |
| S T 49 | 住居跡  | (12-14-44~46)G | 不整方形    | N-6°20'W                   | 3.78×3.45       |                         |
| SK 54  | 土 壤  | (13-47)G       | 不整円形    |                            | 0.98×0.98       |                         |
| S T 66 | 住居跡  | (14~16-49~51)G | 不整方形    | N-43°10'E                  | 4.34×(3.70)     |                         |
| S T 70 | 住居跡  | (14~16-45~49)G | 不整長方形   | N-14°50'W                  | 5.51(3.64)      |                         |
| S D 72 | 溝 跡  | (12~15-38~44)G | (逆台形)   | N-21°10'W                  | (10.12)×(0.90)  |                         |
| S X 73 | 落ち込み | (13~15-38~41)G | 不整方形    | N-4°10'E                   | (5.00)×3.96     | S T36に切られる。<br>第8回      |
| SK 74  | 土 壤  | (11-44~45)G    | 楕 圓 形   |                            | 1.12×1.92       |                         |
| S X164 | 落ち込み | (11-12-40-41)G | 方 形 ?   | N-12°00'E                  | (1.22)×(3.05)   | S T36に切られる。<br>第6回      |

表2 遺物観察表(1)

| 擲出番号  | 版面<br>頁 | 器種    | 出土位置      | 法量(cm) |        | 調 整   |         | 底部<br>形態 | 分類        | 備考 |
|-------|---------|-------|-----------|--------|--------|-------|---------|----------|-----------|----|
|       |         |       |           | 口 径    | 底 径    | 高     | 外 面     |          |           |    |
| 9-1   | 5       | 土師器坏  | S D37-F1  | 13.0   |        | (3.6) | ミガキ     | ミガキ→黒色化  | A II      |    |
| 9-2   | 5       | 土師器坏  | S X48-F2  | (9.6)  |        | (1.6) | ミガキ→黒色化 | ミガキ→黒色化  | 丸 底 A     |    |
| 9-3   | 5       | 土師器坏  | S T66-F   | (13.0) |        | 5.2   | ハケ目     | ミガキ→黒色化  | 丸 底 A I   |    |
| 9-4   | 5       | 土師器坏  | S D61-F3  | 15.6   |        | (5.0) |         | ミガキ→黒色化  | A III     |    |
| 9-5   | 5       | 土師器坏  | S K74-F   | (10.6) | (5.0)  |       | ハケ目     | ミガキ→黒色化  | 小平底 A     |    |
| 9-6   | 5       | 土師器坏  | S K74-F   | 12.8   |        | 5.6   |         | ミガキ→黒色化  | A IV      |    |
| 9-7   | 5       | 土師器坏  | S K74-F   | 12.8   |        | 6.3   |         | ミガキ→黒色化  | A V       |    |
| 9-8   | 5       | 土師器坏  | S K74-F   | (8.2)  | (5.6)  | (1.3) |         | ミガキ→黒色化  | A         |    |
| 9-9   | 5       | 土師器坏  | S K74-F   | 12.4   |        | 7.1   | ミガキ     | ハケ目      | 小平底 A V   |    |
| 9-10  | 5       | 土師器坏  | S T49-F   | (16.8) |        | (3.8) | ミガキ     | ミガキ→黒色化  | A III     |    |
| 9-11  | 5       | 土師器坏  | S T66-F1  | (11.0) |        | (5.6) |         | ミガキ      | A II      |    |
| 9-12  | 5       | 土師器坏  | S K74-F   | 14.4   | 6.2    | 5.5   | ケズリ     | ハケ目      | 丸 底 A IV  |    |
| 9-13  | 5       | 土師器裏  | S X43-F1  | 16.2   |        | (3.6) | ハケ目     | ハケ目      | D I       |    |
| 9-14  | 5       | 土師器坏  | S T70-F1  | (8.0)  |        | (3.5) | ミガキ     | ミガキ→黒色化  | 高台付 B I   |    |
| 9-15  | 5       | 土師器坏  | S X48-F2  | (8.0)  | (4.0)  | (2.3) |         | シボリ      | 高台付 B III |    |
| 9-16  | 5       | 土師器 壁 | S T66-F1  | (14.6) |        | (5.5) | ハケ目     |          | D II      |    |
| 9-17  | 5       | 土師器坏  | S X164-F2 | (8.2)  |        | (4.0) | ミガキ     | ミガキ→黒色化  | 高台付 B II  |    |
| 9-18  | 5       | 土師器坏  | S X48-F2  | 10.2   | (4.2)  | ハケ目   | ミガキ     | ミガキ→黒色化  | B I       |    |
| 9-19  | 5       | 土師器 裏 | S T36-F1  | (17.8) |        | (3.4) | ハケ目     | ハケ目      | D I       |    |
| 9-20  | 5       | 土師器坏  | S T70-F3  |        | (0.0)  | (5.6) | ミガキ     |          | B II      |    |
| 9-21  | 5       | 土師器坏  | S X48-F2  |        | (10.8) | (5.2) | ミガキ     | ミガキ→黒色化  | 高台付 B II  |    |
| 10-1  | 6       | 土師器 壁 | S D22-F1  |        | 6.7    |       | ハケ目     | ハケ目      | 平 底 D     |    |
| 10-2  | 6       | 土師器 壁 | S T70-F1  |        |        |       | ハケ目     | ハケ目      | D II      |    |
| 10-3  | 6       | 土師器 壁 | S T66-F1  |        |        |       | ハケ目     |          | D III     |    |
| 10-4  | 6       | 土師器 壁 | S T66-F1  | 7.4    |        |       | ハケ目     |          | 平 底 D     |    |
| 10-5  | 6       | 土師器 壁 | S T35-F1  |        |        |       | ハケ目     | ハケ目      | D         |    |
| 10-6  | 6       | 土師器 壁 | S T66-F1  |        | 5.4    |       | ハケ目     | ハケ目      | 平 底 D     |    |
| 10-7  | 6       | 土師器 壁 | S T35-F   |        |        |       | ハケ目     | ハケ目      | D         |    |
| 10-8  | 6       | 土師器 壁 | S X48-F2  | 170    |        | (250) | ハケ目     | ハケ目      | 丸 底 D III |    |
| 10-9  | 6       | 土師器 壁 | S X73-F1  | 115    | (45)   | 86    | ハケ目     | ハケ目      | 平 底 C     |    |
| 10-10 | 6       | 土師器 壁 | S X48-F2  | 180    |        | (127) | ハケ目     | ナダ       | D III     |    |
| 10-11 | 6       | 石 罐   | S D1-F2   | 18     |        | 30    | 全面調査    | 全面調査     | 珪質頁岩製     |    |
| 10-12 | 6       | 石製防護車 | S X48-F2  | 4.6    |        | 1.3   | 全面研磨    | 全面研磨     | 滑石製       |    |
| 10-13 | 6       | 土 壁 玉 | S X72-F1  | 2.7    |        | 1.0   | 削り      | 削り       |           |    |

## 3 平安時代

(1) 排水路地区(第5・13図)

【位置・概観】調査区の南方60mの地点、0～2～0～4Gに位置し、長さ90m、幅2mの約180平方mを排水路地区として調査した。各種の覆土はオリーブ黒色の粘質微砂を主体とする土層で、溝跡(S D)を14条、土壤(S K)を6基、ピット(E P)を13個検出した。遺物は主に東側のS D 1・2溝跡および中央部分のS D13溝跡(第14図9・10)から出土している。

S D 1溝跡は排水路地区の0～2～3～4 Gにあって、幅2.5mから2.2mを測り、北西から南東方向に延びる。深さは最深部約20cm、遺物包含層の厚さは約50cmで、溝跡一面に広がりをみせる。

【遺物】出土遺物としては須恵器高台(第16図1)、須恵器坏(同図2)、赤焼土器坏(同図3)、須恵器坏墨書き「岐」(同図4)、須恵器坏(同図5)、須恵器蓋(同図6)、赤焼土器坏(同図7)、須恵器蓋(同図15)、銅製脣(第17図1)、石鐵(第10図11)等整理箱で1箱分が出土した。遺物の中では、「岐」の記名がある須恵器墨書き土器が出土したことが注目に値する。「岐」の墨書き土器は、包含層からもう1点(第14図11)出土している。

(2) S D40、S D50大溝(第13図)

S D40は本調査区南地区の南側を東西に延びる溝跡で5～16～33～35Gで検出され、幅4.7mから4mを測る。深さは最深部で約90cm、覆土オリーブ黒色の粘質微砂を主体とした土層で、地層は第6層に細分され、第4層に有機物を多く含んだ地層がある。遺物は第1層から平安時代の須恵器・甕・赤焼土器などが少量出土している。

S D50は南地区の中央を東西に延びる溝跡で9～16～35～37Gで検出され幅3.5mから2.5mを測る。このS D50に直交する形で北西からS D37が流入する。また、このS D 1に重なる形で幅30cm～50cmの溝跡が検出されていることから、S D 1は埋積を重ねることで溝幅を狭めながらその埋積を終えていることが分かる。

遺構の精査を幅2mでおこなったが、出土遺物は検出できなかった。

(3) S D39建物跡、S D60・61大溝(第12図)

S D39は北地区の北西縁辺部12～16～53～56Gに位置する、3間×2間以上の掘立建物跡である。柱穴8個が確認され、柱穴の間隔は2.4m～3.0mで柱穴の延長は北に延びると思われる。中柱となる柱穴の存在を考慮すれば床敷きの建物跡ないし倉庫跡であったと推定される。建物は、柱穴掘り方から、平安時代の土師器や赤焼土器片が出土している。

S D60は8～16～51～52Gで検出され幅1.8m～1.6mで、上記S D39建物跡に平行する形で東西に延び、北から南に延びるS D61に9～53Gで直交することからS B建物跡と深く関わりあっていたものと考察される。遺物として須恵器甕(第14図17)や中世陶器甕(第15図8・9)、陶器の火箱(同図10)が出土した。

(4) S B34建物跡(第11図)

北地区中央9～12～47～51Gに位置する。西側の柱穴群は3間分の検出がなされた柱間は

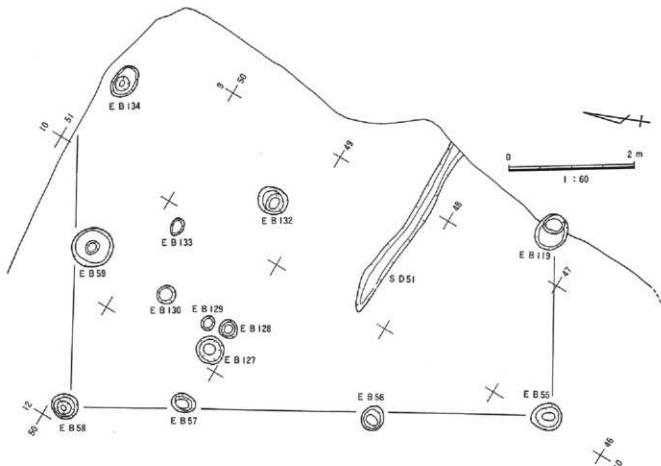
1.0m～2.8mで、北側に2間（柱間2.4m～2.5m）南側に1間（柱間3m）の検出をみたが、東面は水田耕作による削平部分で検出することができなかった。検出された7個の柱穴から平安時代の赤焼土器が出土しており同時代の掘立建物跡と推定することができる。

西面及び北面での検出測定からすると、建物跡の面積は7.8m×5mで約39平方mの広さを有する。

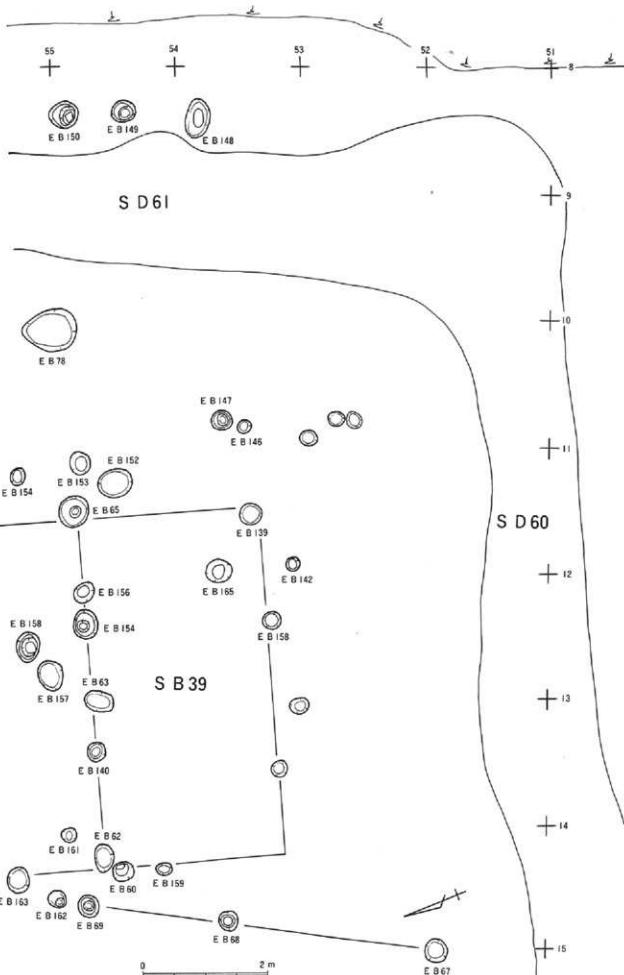
#### (5) S B 43建物跡

南地区中央12～15-53～56Gに位置し、5個の柱穴が1.8～3.6m間隔でL字形に検出されたことから、建物跡の一部と考えられる。他の柱列は北西から南東に延びるS D72および東側にあるS X43によって削平された部分とみなされ検出することはできなかった。柱穴が古墳時代の住居跡を掘り込んでおり覆土が上記S B39、およびS B34の住居跡と同じことから平安時代の建物跡と推察した。

規模は柱穴の間隔から推定するに約9m×約6m（約54平方m）程度の住居跡と推定される。

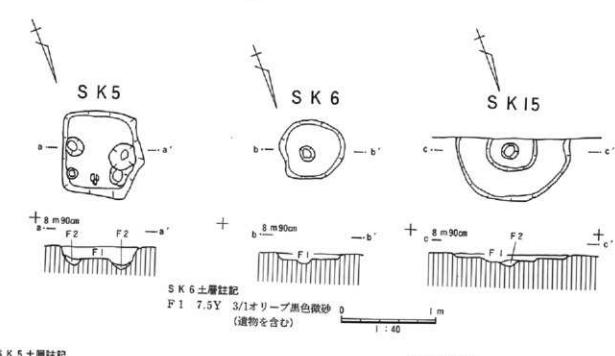
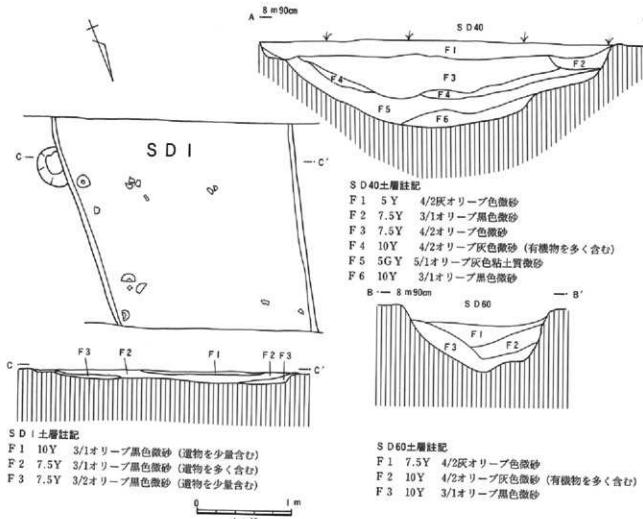


第11図 S B 34建物跡平面図



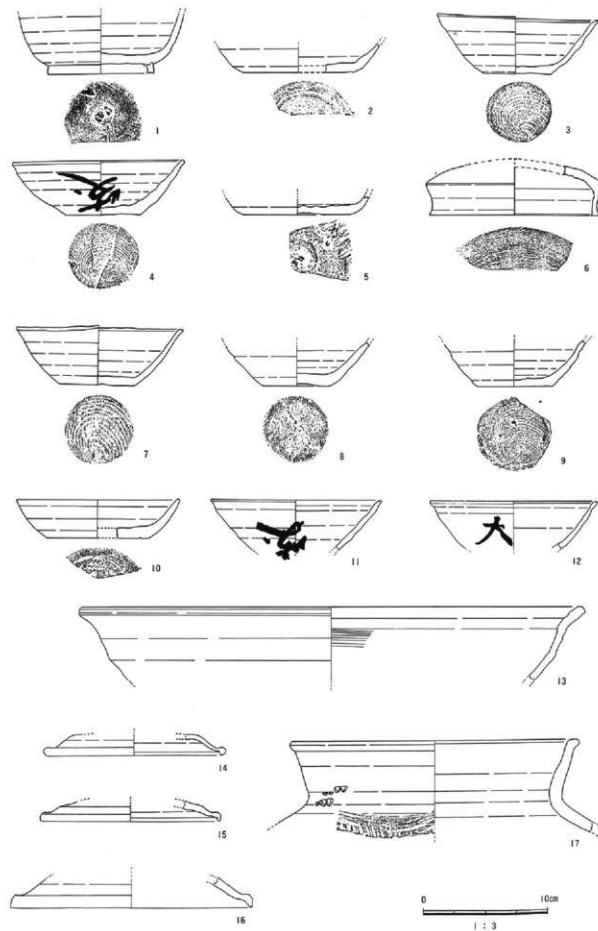
第12図 S B 39建物跡平面図

III 遺構と遺物

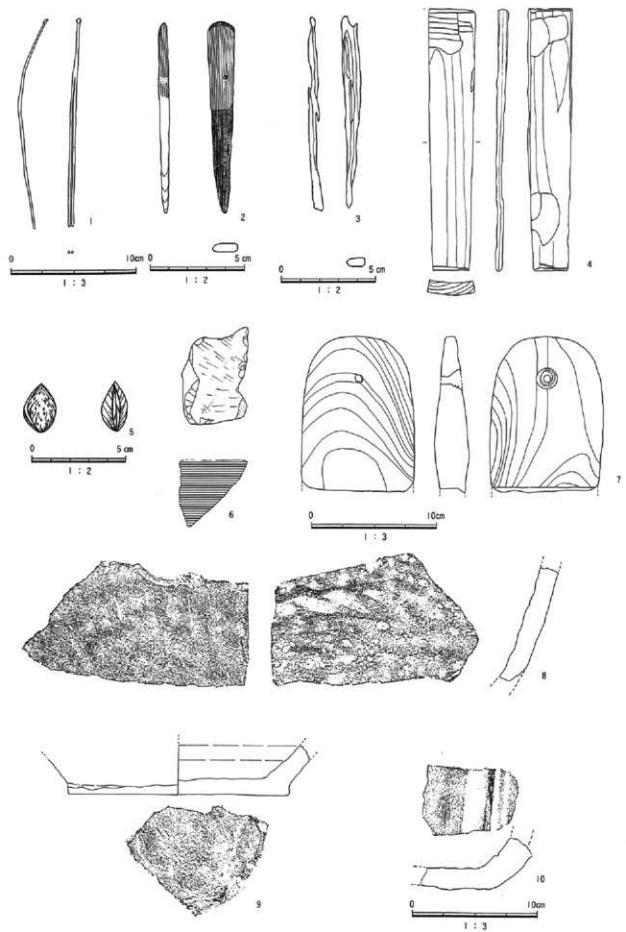


第13図 溝跡・土壤

III 遺構と遺物



第14図 歴史時代遺物(1)



第15図 歴史時代遺物(2)

表3 遺構観察表(2)

| 遺構番号  | 種 別        | 検出地区(X-Y) G      | 平面(断面)形   | 主 軸 方 位     | 規 模<br>(N-S×E-W)m | 備 考          |
|-------|------------|------------------|-----------|-------------|-------------------|--------------|
| S D 1 | 溝 勝        | (3-4-1-2) G      | (鍋底形)     | N- 2°00'-E  | 2.20×2.55         | 第13回「岐」高審土器  |
| S D 2 | 溝 勝        | (5-~7-1-2) G     | (U字形)     | N- 4°00'-E  | 1.65×0.29         | 第5回          |
| S D 3 | 溝 勝        | (4-~1-1.2) G     | (逆台形)     | N- 0°00'-E  | 2.11×0.38         | 第5回          |
| S K 4 | 土 壇        | (4-5-1.2) G      | 円 形       | (0.60)×1.38 |                   | 第5回          |
| S K 5 | 土 壇        | (2-1) G          | 不 壓 方 形   | N-22°00'-E  | 0.91×0.87         | 第13回         |
| S K 6 | 土 壇        | (1-1) G          | 不 壓 円 形   |             | 0.62×0.70         | 第13回         |
| S D11 | 溝 勝        | (11-12-1) G      | (逆台形)     | N-13°10'-W  | 1.09×0.27         | 第5回          |
| S D13 | 溝 勝        | (12-13-1) G      | (逆台形)     |             | 0.78×0.73         | 第5回          |
| S D14 | 溝 勝        | (16-1) G         | (逆台形)     | N-69°00'-E  | 0.56×(6.83)       | 第5回          |
| S K15 | 土 壇        | (21-1) G         | 円 形       | (0.51)×1.18 |                   | 第13回         |
| S K16 | 土 壇        | (24-1) G         | 不 壓 円 形   |             | (1.20)×1.50       | 第5回          |
| S D18 | 溝 勝        | (29-30-1) G      | (逆台形)     | N-12°10'-W  | (1.58)×0.21       | 第5回          |
| S D19 | 溝 勝        | (32-33-1) G      | (鍋底形)     | N- 4°50'-W  | (0.84)×0.32       | 第5回          |
| S K20 | 土 壇        | (34-35-1-2) G    | 不 壓 横 円 形 |             | (1.31)×3.11       | 第5回          |
| S D21 | 溝 勝        | (35-36-1) G      | (鍋底状)     | N-11°10'-W  | (1.06)×0.16       | 第5回          |
| S D22 | 溝 勝        | (36-1-2) G       | (U字形)     | N- 3°50'-W  | (1.70)×0.22       | 第5回          |
| S D23 | 溝 勝        | (37-1) G         | (U字形)     | N-31°50'-W  | (1.82)×0.34       | 第5回          |
| S D26 | 溝 勝        | (38-39-1) G      | (逆台形)     | N-73°50'-E  | 0.46×(1.62)       | 第5回          |
| S D32 | 溝 勝        | (45-1-2) G       | (鍋底形)     |             | (0.42)×0.39       | 第5回          |
| S D33 | 溝 勝        | (45-1-2) G       | (逆台形)     |             | (0.67)×0.31       | 第5回          |
| S B34 | 樹立 柱 附 物 務 | (8-12-47-51) G   | 長 方 形     | N-10°50'-W  | 7.68×(5.40)       | 第11回 3間×1間以上 |
| S D35 | 溝 勝        | (12-~16-39-44) G | (U字形)     | N-12°50'-W  | (10.38)×1.44      |              |
| S D38 | 溝 勝        | (8-9-33) G       | (U字形)     | N- 0°20'-E  | (1.40)×0.44       |              |
| S B39 | 樹立 柱 附 物 務 | (12-~15-54-56) G | 長 方 形     | N-17°40'-E  | (4.41)×5.52       | 第12回 3間×2間以上 |
| S D40 | 溝 勝        | (6-18-33-35) G   | (鍋底形)     | E-18°10'-N  | 4.50×(19.50)      | 第13回         |
| S B43 | 樹立 柱 附 物 務 | (10-13-42-~44) G | 長 方 形     | N-21°00'-E  | (3.60)×(6.60)     | 第4回 2間×2間以上  |
| S D50 | 溝 勝        | (9-16-37-38) G   | (U字形)     | E-17°50'-N  | 2.83×(14.50)      | 第4回          |
| S D51 | 溝 勝        | (9-10-49) G      | (U字形)     | E-19°20'-N  | 0.26×(2.94)       |              |
| S D52 | 溝 勝        | (6-8-~33-37) G   | (鍋底形)     | N-13°20'-E  | (8.40)×4.75       | 第4回          |
| S D60 | 溝 勝        | (8-16-56-52) G   | (U字形)     | E-17°30'-N  | 1.86×(15.15)      | 第13回         |
| S D61 | 溝 勝        | (9-10-52-~56) G  | (U字形)     | N-15°30'-E  | (7.50)×1.85       |              |
| S K71 | 土 壇        | (11-36-37) G     | 楕 円 形     |             | 1.26×1.02         |              |

表4 遺物観察表(2)

| 編目<br>番号 | 図版<br>頁 | 器種    | 出土位置      | 法量(cm) |        | 調査     |        | 底面<br>形態 | 分類  | 備考        |
|----------|---------|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|----------|-----|-----------|
|          |         |       |           | 口<br>径 | 底<br>径 | 高<br>度 | 外<br>面 |          |     |           |
| 14-1     | 9       | 須恵器窯  | SD1-F1    | (13.0) | 8.4    | (4.6)  | ロクロ底   | ロクロ底     | 平底  | Ga ヘラ切り   |
| 14-2     | 9       | 須恵器窯  | SD1-F1    | (12.8) | (8.7)  | (2.1)  | ロクロ底   | ロクロ底     | 平底  | Fa ヘラ切り   |
| 14-3     | 9       | 赤燒土器窯 | SD1-F2    | 12.8   | 4.8    | 4.1    | ロクロ底   | ロクロ底     | 平底  | Nb 無切り    |
| 14-4     | 9       | 須恵器窯  | SD1-F2    | 14.0   | 5.6    | 4.3    | ロクロ底   | ロクロ底     | 平底  | Fb 「岐」墨書  |
| 14-5     | 9       | 須恵器窯  | SD1-F2    | (11.2) | 8.4    | (1.3)  | カキ目    | ロクロ底     | 平底  | Fa ヘラ切り   |
| 14-6     | 9       | 須恵器蓋  | SD1-F2    | (13.4) | (14.0) | (3.9)  | ロクロ底   | ロクロ底     | 丸底  | Ga 脊面ヘラ切り |
| 14-7     | 9       | 赤燒土器窯 | SD1-F3    | (12.5) | 5.5    | 4.4    | ロクロ底   | ロクロ底     | 平底  | Nb 無切り    |
| 14-8     | 9       | 赤燒土器窯 | SD2-F2    | (11.2) | 5.2    | (3.2)  | ロクロ底   | ロクロ底     | 平底  | Nb 無切り    |
| 14-9     | 9       | 須恵器窯  | SD13-F    | (11.2) | 5.8    | (3.4)  | ロクロ底   | ロクロ底     | 平底  | Fb 無切り    |
| 14-10    | 9       | 須恵器窯  | SD13-Y    | (13.0) | (8.0)  | 3.0    | ロクロ底   | ロクロ底     | 平底  | Fa ヘラ切り   |
| 14-11    | 9       | 須恵器窯  | I-I-II    | (13.4) |        | (4.0)  | ロクロ底   | ロクロ底     | 平底? | Fb 「岐」墨書  |
| 14-12    | 9       | 須恵器窯  | 6-45-II b | (13.0) |        | (9.9)  | ロクロ底   | ロクロ底     | 平底? | Fb 「大」墨書  |
| 14-13    | 9       | 赤燒土器窯 | SD2-F3    | 39.4   |        |        | ロクロ底   | ロクロ底     | O   |           |
| 14-14    | 9       | 須恵器蓋  | SD72-F2   | 14.0   |        | (1.4)  | ロクロ底   | ロクロ底     | Gb  |           |
| 14-15    | 9       | 須恵器蓋  | SD1-F1    | (14.4) |        | (1.2)  | ロクロ底   | ロクロ底     | Gb  |           |
| 14-16    | 9       | 須恵器蓋  | SK4-F1    | (19.3) |        | (3.4)  | ロクロ底   | ロクロ底     | Gb  |           |
| 14-17    | 9       | 須恵器蓋  | SD60-F1   | (22.6) | 24.8   | 7.2    | ロクロ底   | ロクロ底     | I   |           |
| 15-1     | 10      | 耐熱製品  | SD1-F1    | 16.5   | 6.4    | 0.2    |        |          |     |           |
| 15-2     | 10      | 木製品   | I-21-II   | #      | 10.1   | #      | 燒痕     | 燒痕       |     |           |
| 15-3     | 10      | 板状木製品 | SD-2-F2   | #      | 10.2   | 0.9    | #      | 削り       |     | 杉材        |
| 15-4     | 10      | 木桶    | 10-52-I   | #      | 26.6   | 3.5    | 1.0    | 削り       |     |           |
| 15-5     | 10      | 果核    | I-33-II   | #      | 2.6    | 1.8    | 1.4    |          |     | 桃         |
| 15-6     | 10      | 砥石    | 10-57-I   | #      | 6.7    | 3.8    | 5.2    | 研磨痕      |     |           |
| 15-7     | 10      | 下駄    | 10-52-I   | #      | 12.3   | 8.8    | 2.6    | 削り       |     |           |
| 15-8     | 10      | 中世陶器裏 | SD61-F3   | (15.0) | (9.2)  | 1.5    | ミガキ    | アテ底      |     |           |
| 15-9     | 10      | 中世陶器裏 | SD61-F3   | (20.8) | (15.6) | 1.7    |        | アテ底      | 平底  |           |
| 15-10    | 10      | 開形火箱  | SD60-F1   |        |        | 2.3    | タキ     | ロクロ底     | 平底  |           |

## IVまとめ

## 1 遺構について

今回の調査によって五百刈遺跡からは、古墳時代の竪穴住居跡4棟、落ち込み遺構4基、土壙4基、溝跡2条、平安時代の建物跡3棟、土壤7基、溝跡22条等が検出された。

当初、五百刈遺跡の時期は平安時代と考えられていたが、平安時代の地層(Ⅲ層)の下に間層(Ⅳa層)を挟んでさらに古墳時代の地層が堆積していることが判明した。古墳時代の遺物は、次節で述べるように6世紀代を主とするが、これより古い5世紀代の土器も破片で出土しており、今後この時期の住居跡が発見される可能性もある。

古墳時代の遺構は、竪穴住居跡と落ち込み遺構・溝跡・土壤等があり、本調査区の畠地部分から主として検出された。この時期の集落は、現地形や第1図の周辺低地微地形分類からみて、当時の微高地に並ぶ可能性が高い。微高地以外の低地分には水田の存在も考えられる。

4棟の竪穴住居跡のうち2棟は西側が未検出となっているが、平面形は方形を基本として長軸の長さは3.5~5.5mを測る。炉やカマドは検出されなかった。遺構検出面から床面までの高さは12~17cmである。床面は比較的安定しているが、顯著な貼床は認められない。主たる柱穴の配置は、ST49住居跡の例からみて4本柱を基本とすると考えられる。

住居跡の主軸方位は、ST36・49住居跡とSX73が磁北に対し3~6度西、ST70住居跡が約10度西、ST66住居跡が約43度東に傾く。

SXとした4基の落ち込み遺構は、竪穴住居跡の可能性があるものの、底面が波打っており、壁面も一部を除き明確ではない。性格については不明な点が多いが、土壤の大きなものや遺物包含層の自然的な落ち込み等が考えられる。

土壤のうちSK74土壤については、环を一括して廃棄した祭祀的性格が考えられる。平安時代の遺構は、掘立柱建物跡と土壤・溝跡等が本調査区北半と排水路地区から主として検出された。古墳時代に比較して、集落の範囲がさらに広がるようである。

掘立柱建物跡のうちSB39建物跡は3間×2間以上の規模で、さらに北側に延びると思われる。中柱となる柱穴の存在を考慮すれば、床敷の建物跡なし倉庫跡が考えられる。これを囲むようにSD60・61大溝が巡り、その中にはSB39建物跡以外にも数棟の建物跡の存在が予測される。SB34建物跡は3間×2間以上の規模で、さらに東側に延びると思われる。SB43建物跡は2間×2間以上の規模で、柱穴が5個L字形に検出されている。

本調査区からは、この他にSD40・50・52等の東西ないし南北方向の幅3mを超大溝が検出されている。これらの大溝からは古墳時代や平安時代の遺物が出土しているものの中世や近世の陶器も出土しており、平安時代とは関係ない後世の大溝と考えられる。

土壤や幅30cm前後の溝は、排水路地区からまとめて検出された。線形的な遺構の検出に止まっているが、近くに建物跡が発見される可能性がある。なお、今回の調査区は遺跡の北端にあたり、五百刈遺跡の中心部はさらに南側や東側に広く延びるものと思われる。

## 2 遺物について

本遺跡からは、古墳時代や平安時代の土器・石器等が整理箱にして11箱出土した。

古墳時代の遺物は、土器類が大部分で、古墳時代と推定できる須恵器は認められない。

土器類には、壺（A）・高杯（B）・鉢（C）・甕（D）・壺（E）がある。

壺は内外が丁寧に磨かれ、内面に黒色化処理が施されているもの（内黒）と、黒色化処理が施されていないもの（非内黒）の二者がある。数量的には前者が多い。器形や整形技法等から、I類：丸底で体部が丸味をもち、口縁部で軽く外反するもの（第9図3）、II類：丸底で体部が丸味をもち、口縁部が上方で外反するもの（同図1・11）、III類：丸底で体部中間に段を有し、口縁部がやや長く引き出されるもの（同図4・10）、IV類：平底気味で体部が直線的に立ち上がり、口縁部が軽く外反するもの（同図6・12）、V類：平底で体部が丸味をもち、口縁部が上方で外反するもの（同図7・9）に分けられる。

高杯も内外が丁寧に磨かれ、内黒と非内黒の二者がある。壺部と接続するものがいたため、脚部の形態や整形技法から、I類：低い脚部がハ字状に開くもの（第9図14・18）、II類：筒状の脚部が下半部でハ字状に開くもの（同図17・20・21）、III類：低い直線的な高台がつくものの（同図18）の3種に分けられる。第9図10も高杯になるかもしれない。

鉢は平底で口縁部が軽く外反し、内外に刷毛目を有するもの（第10図9）が1点ある。

甕は外面ないし内外面に刷毛目を有する長胴のもので、底部は平底と丸底がある。口縁部の形態や器形から、I類：口縁部が強く屈曲するもの（第9図13・19）、II類：口縁部がく字状に外反するもの（第9図16・第10図2）、III類：口縁部が直線的に立上がるるもの（第10図3・8・10）の3種がある。壺は器形が復元出来るものがなかった。

五百刈遺跡の古墳時代の土器群は、庄内地方では鶴岡市助作遺跡S T 9住居跡や同矢駄A遺跡S T 13住居跡の土器群と類似する。時期は古墳時代中期6世紀中頃と推定される。

平安時代の遺物は、土器類・須恵器・赤焼土器の三種の土器と砥石・木製品等がある。

須恵器の器種には壺（F）・高杯（G）・蓋（H）・甕（I）・壺（J）、土器類の器種には坪（K）・壺（L）・甕（M）、赤焼土器の器種には壺（N）・鍋（O）・甕（P）等がある。

須恵器の壺と高杯は、底部の切り放しやヘラ切り（第14図1・2・5・10）と糸切り（同14図4・9）があり、器形は器高に比しての底径がやや大きいもの（a）とやや小さいもの（b）の二種がある。須恵器甕は、（a）甕の外蓋（同図6）と（b）矧い返しが付くもの（同14～16）がある。赤焼土器壺の底部の切り離しは、すべて糸切りである。以上のことから、これらの土器群の時期は、平安時代前半9世紀後半頃と推定される。

## 参考文献

阿部明彦他「鶴岡西地区遺跡群 矢駄A遺跡・矢駄B遺跡・清水新田遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第127集 山形県・山形県教育委員会 1988年

阿部明彦「庄内平野の古墳時代史－山形県庄内地方出土の土師式土器を中心として」加藤稔選著記念論文集所収 1992年

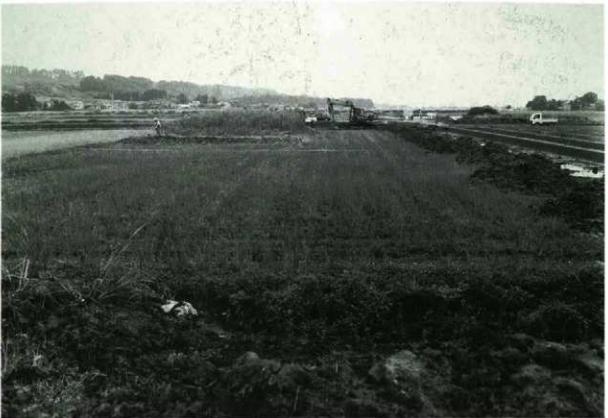
## 報告書抄録

|        |   |
|--------|---|
| ふりがな   | 五百刈遺跡発掘調査報告書                              |
| 書名     | 五百刈遺跡発掘調査報告書                              |
| 副書名    |   |
| 巻次     |   |
| シリーズ名  | 山形県埋蔵文化財センター調査報告書                         |
| シリーズ番号 | 第10集                                      |
| 編著者名   | 佐藤庄一・飯塚 総                                 |
| 編集機関   | 財団法人山形県埋蔵文化財センター                          |
| 所在地    | 〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号 Tel 0236-72-5301 |
| 発行月日   | 西暦 1994年 3月 31日                           |

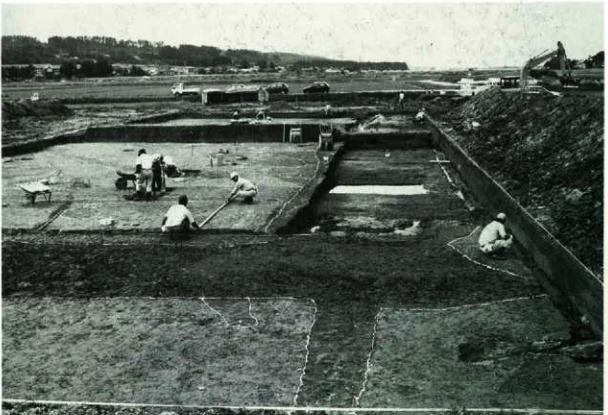
| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地             | コード<br>市町村 | 遺跡番号        | 北緯                | 東経                 | 調査期間                      | 調査面積<br>m <sup>2</sup> | 調査原因         |
|--------------|-------------------------|------------|-------------|-------------------|--------------------|---------------------------|------------------------|--------------|
| 五百刈          | 山形県鶴岡市<br>大字五百刈<br>字五百刈 | 6203       | 平成3年度<br>登録 | 38度<br>46分<br>29秒 | 139度<br>47分<br>20秒 | 1993.07.26～<br>1993.08.25 | 1,000                  | 県営は場<br>整備事業 |

| 所収遺跡名 | 種別  | 主な時代       | 主な遺構                            | 主な遺物                             | 特記事項                              |
|-------|-----|------------|---------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| 五百刈   | 集落跡 | 古墳時代       | 竪穴住居跡                           | 4棟                               | 土師器、石製防護車                         |
|       |     | 中期         | 土壙<br>溝<br>その他<br>柱穴など          | 13基<br>4条<br>落ち込み・<br>柱穴など       | 土製丸玉                              |
|       |     | 平安時代<br>前半 | 掘立柱建物<br>土壙<br>溝<br>その他<br>柱穴など | 3棟<br>6基<br>17条<br>落ち込み・<br>柱穴など | 土師器、須恵器<br>赤焼土器、砥石<br>木製品（下駄、桶側板） |

図 版



発掘調査前の状況（北から）



本調査区発掘調査状況（南から）

図版 2



S T 36住居跡近景



S D 72溝跡近景



S X 48遺物出土状況

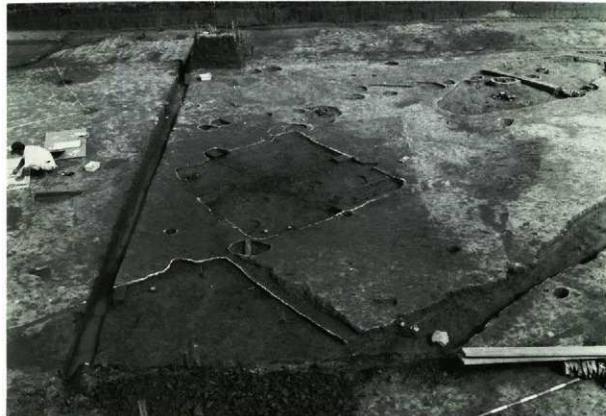


S K 74遺物出土状況



S T 49住居跡（西から）

図版 3

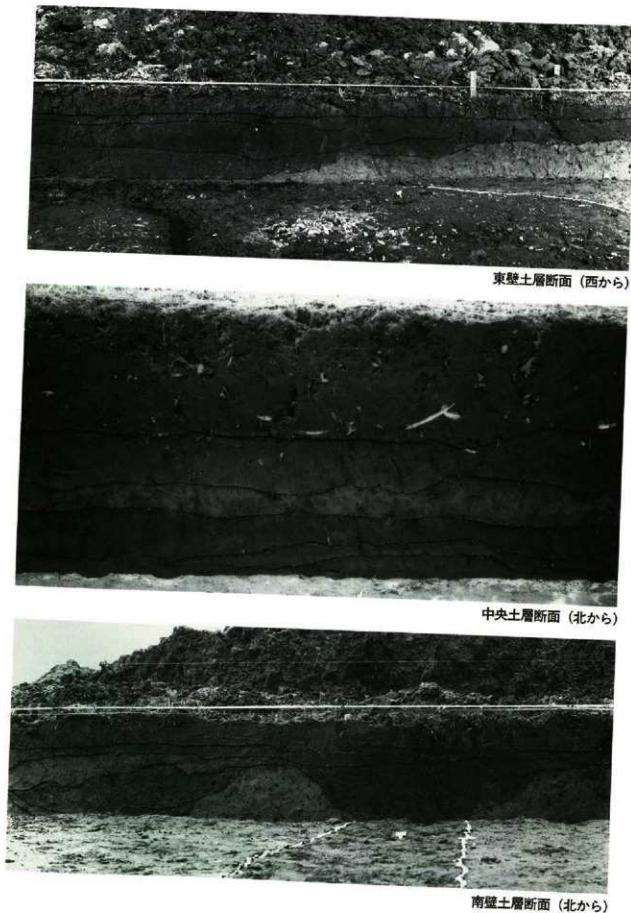


S T 49住居跡全景（西から）

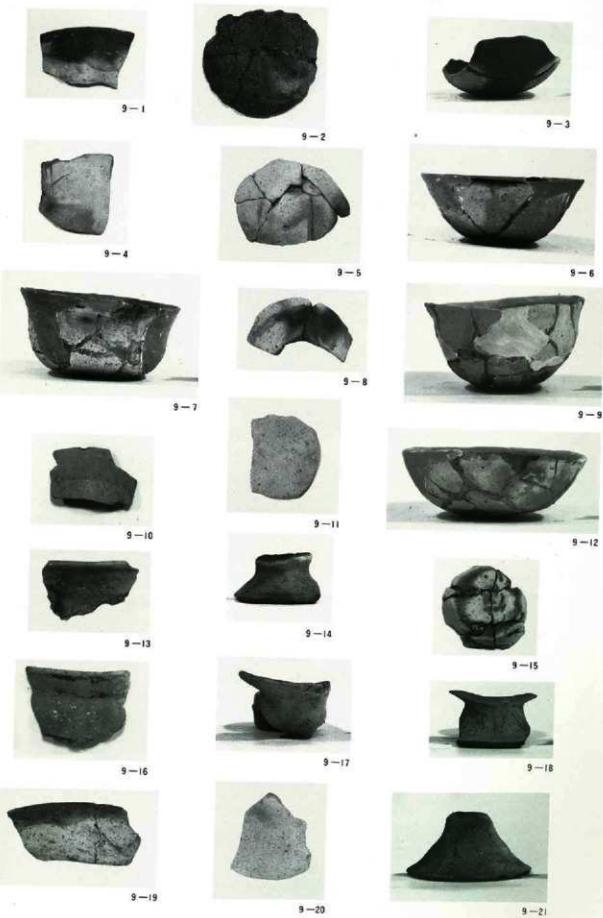


S T 70住居跡全景（北東から）

図版 4

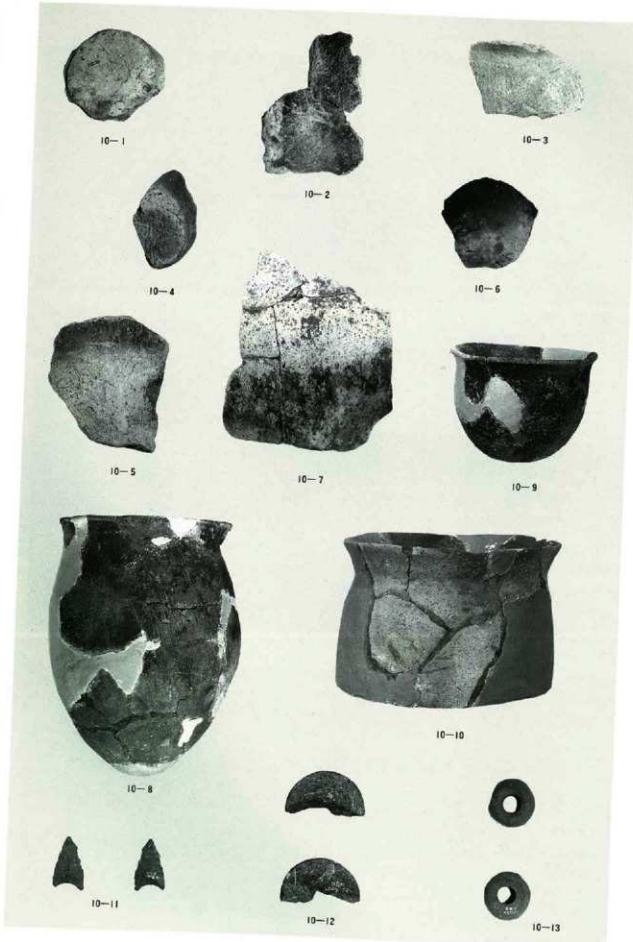


図版 5



古墳時代等出土遺物 (1)

図版 6



古墳時代等出土遺物（2）

図版 7

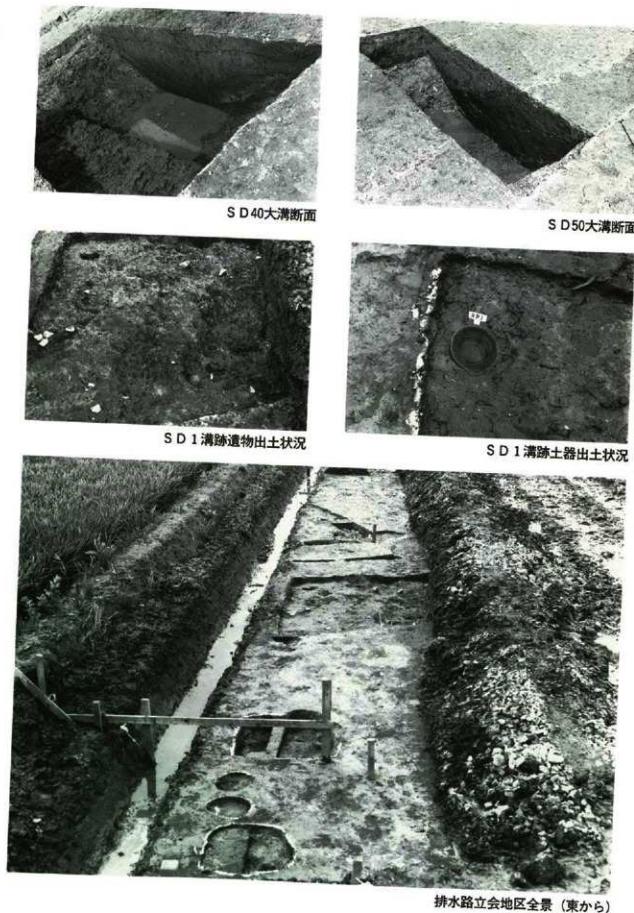


S B 39建物跡全景（南西から）

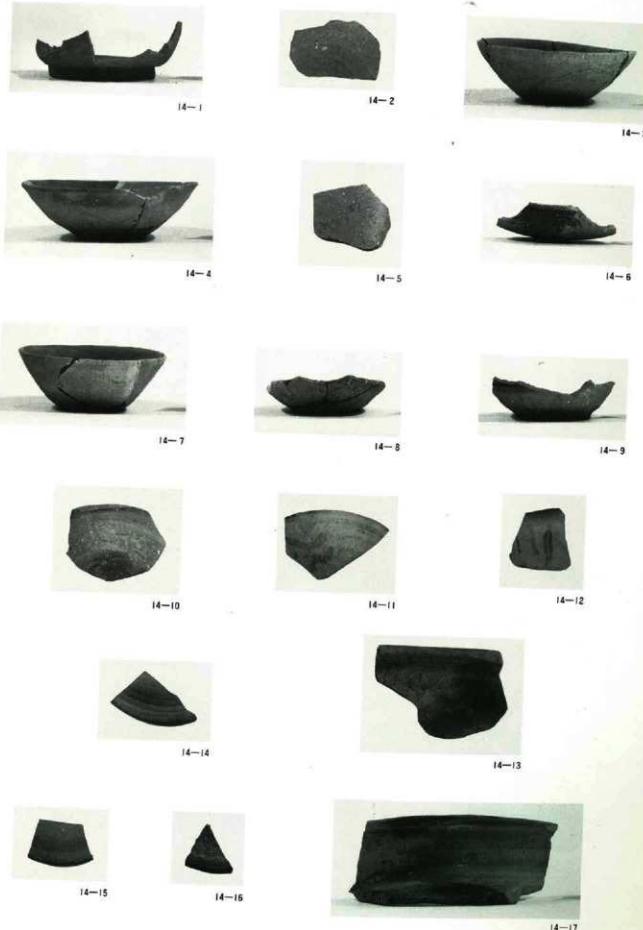


S B 34・39建物跡遠景

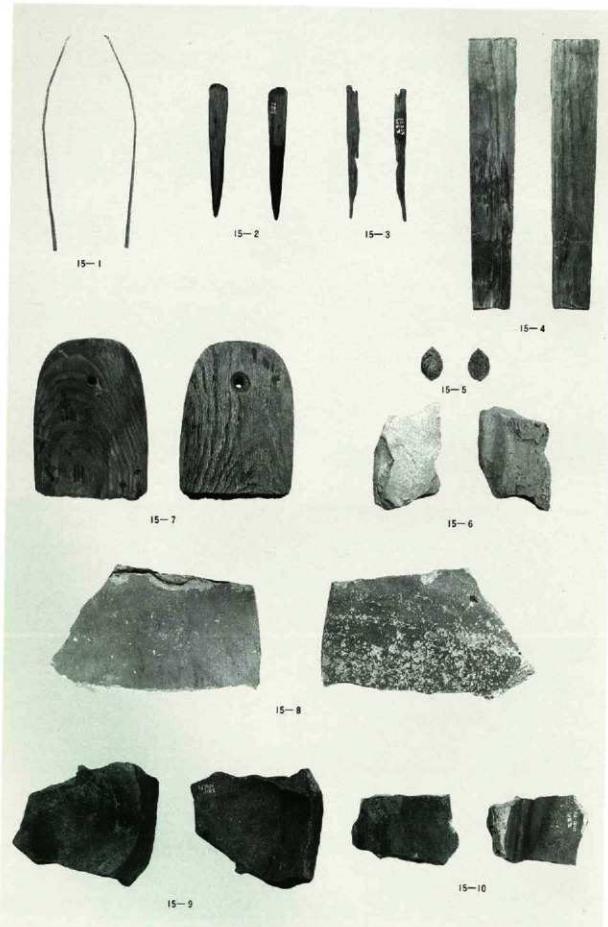
図版 8



図版 9



歴史時代出土遺物 (1)



歴史時代出土遺物（2）

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第10集

五百刈遺跡発掘調査報告書

1994年3月31日 発行

発行 財團法人 山形県埋蔵文化財センター

〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号

電話 0236-72-5301

印刷 大場印刷株式会社

1995-1174